



平成26年度

第4回 みみらんどセミナー

「乳幼児期のことばの育ち」

- ☆ 実施日時 ☆ 平成26年8月29日（金）
- ・ 午前の部（保護者向け） 10:30～12:00
 - ・ 午後の部（教職員向け） 13:45～15:45

- ☆ テーマ ☆ 「乳幼児期のことばの育ち」

- ☆ 講師 ☆ 筑波大学附属聴覚特別支援学校
乳幼児教育相談 佐藤 幸子 先生



午前の部は、保護者・保健師・保育士の方々など16名、午後の部はことばの教室担当教員の方々にも参加いただき、29名となりました。

午前の部では、主に子どもと保護者がかかわる上でのポイントを中心に、午後の部では保護者の思いを受け止めながらの支援について、具体的なエピソードを交えながらお話しいただきました。



「赤ちゃんが先生」の気持ちで！

- ・ 赤ちゃんは、言葉にならない「ことば」を全身でたくさんおしゃべりしている。母親はそれを読み取り対応をすることが大切である。
- ・ 子どもは愛情で育つもの。愛情があるからこそ読み取りができ、それが「ことば」となる。母親が明るく穏やかな気持ちで子どもと向き合うことそのものが「ことば」となっていく。
- ・ ことばは単に「〇〇」としゃべれることではない。物を見た時に、質感や概念、面白さ、扱い方などの**イメージ**まで想起できるかが大切。そのためには、日常生活の中での細やかなやりとりが必要。



母親に育児の喜びを

- ・ 出生間もない時期に我が子の障害を突きつけられ、衝撃と混乱を抱えている母親に、コミュニケーションの原点としての無条件の愛情に満ちたやりとりの感覚と育児の喜びを取り戻させることが我々指導者の大きな役割である。
- ・ 子どもとのやりとりを心から楽しみ、心の位置を同じにする。心の位置が合えば視線も合い、心が響き合うようになる。それは、コミュニケーションや言葉の力を育てるための、なくてはならない基礎となるものである。

参加者の感想

- ・ 「言葉を育てるには…」とばかり考えていたけど、愛情をいっぱい持って関わることが大切なんだと思った。
- ・ 先生のお話を聞いて、「今日は、早く息子に会いたいな。たくさん会話をしたいな。」という気持ちになりました。

